

解答プリント「中学社会・歴史的分野」

■補充プリント

7 江戸時代の社会と文化

【評価の観点】 ㊦：思考・判断・表現 ㊦：技能 ㊦：知識・理解

解答例	解説
<p>1 ㊦ ① 新田</p> <p>㊦ ② 備中ぐわ</p> <p>㊦ ③ 五街道</p> <p>㊦ ④ 西廻り航路</p> <p>㊦ ⑤ 東廻り航路</p> <p>㊦ ⑥ 儒学</p> <p>㊦ ⑦ 三都</p> <p>㊦ ⑧ 元禄</p>	<p>1 ① 新田の開発は幕府や藩だけでなく、民間人によってもおこなわれた。民間人が開いた新田は、開いた人物の名がつけられていることが多い。</p> <p>② 備中ぐわは、刃の部分が3・4本に分かれているため、深く耕すことができた。</p> <p>③ 五街道は幕府の役人が直接支配した。</p> <p>④⑤ 西廻り航路・東廻り航路は、江戸の商人であった河村瑞賢によって開かれた。瑞賢は後に武士に取りたてられている。</p> <p>⑥ 儒学の中でも特に朱子学が重視された。</p> <p>⑦ 江戸、京都、大阪である。</p> <p>⑧ 上方を中心にさかえた町人文化である。上方とは京都・大阪をさした。</p>
<p>2 ㊦ (1) 千歯こき</p> <p>㊦ (2) 蔵屋敷</p> <p>㊦ (3) 人形浄瑠璃</p> <p>㊦ (4) 浮世絵</p>	<p>2 (1) 千歯こきが発明されるまでの脱穀は、こき箸という2本の棒でおこなわれていた。</p> <p>(2) 蔵屋敷で米の売却などをおこなった商人を蔵元という。</p> <p>(3) 人形浄瑠璃は江戸時代初期に、三味線を伴奏とした語りと操り人形が結びついて生み出され、竹本義太夫、近松門左衛門があらわれて、発達した。</p> <p>(4) 浮世絵は、Dの「見返り美人図」の作者である菱川師宣により始められた。</p>
<p>3 ㊦ (1) 商品作物</p> <p>㊦ (2) 東海道</p> <p>㊦ (3) 将軍のおひざもと</p> <p>㊦ (4) 天下の台所</p> <p>㊦ (5) 町人</p>	<p>3 (1) 商品作物には、織物の材料となる麻・綿、油の原料となるなたねなどがある。</p> <p>(2) 東海道は江戸と京を結ぶ主要街道で、街道には53の宿場がつけられた。現在の国道1号線とほぼ同じルートである。</p> <p>(3) 幕府が置かれ、将軍が居住した江戸は、18世紀初めには人口が100万を超える大都市に成長した。江戸で生活する人のうち、町人は約半分の50万人で、残りの半分を武家や寺社の人口がしめた。</p> <p>(4) 蔵屋敷が集中した大阪には、日本各地から米や特産物が集まり、商業が特に発達した。18世紀前半の大阪の人口は約35万人と考えられている。</p> <p>(5) 元禄文化は大商人の経済力を背景に発達した。</p>